

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 2 年 4 月 9 日 (2020.4.9)

【公開番号】特開 2018-139889 (P2018-139889A)
 【公開日】平成 30 年 9 月 13 日 (2018.9.13)
 【年通号数】公開・登録公報 2018-035
 【出願番号】特願 2017-36069 (P2017-36069)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 2 6 C

【手続補正書】
 【提出日】令和 2 年 2 月 28 日 (2020.2.28)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

駆動機構によって、第 1 位置と第 2 位置との間を移動可能な可動部材と、
前記第 2 位置側から前記可動部材に対向し、前記可動部材が前記第 2 位置に配置された
ときに前記可動部材に近接配置される近接部材と、を備えた遊技機であって、
前記可動部材と前記近接部材のうち少なくとも一方の部材における他方の部材との対向
部位が弾性部材で構成される遊技機。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 6】

第 1 の手段は、駆動機構によって、第 1 位置と第 2 位置との間を移動可能な可動部材と
、前記第 2 位置側から前記可動部材に対向し、前記可動部材が前記第 2 位置に配置された
ときに前記可動部材に近接配置される近接部材と、を備えた遊技機であって、前記可動部
材と前記近接部材のうち少なくとも一方の部材における他方の部材との対向部位が弾性部
材で構成される遊技機である。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 7】

本発明によれば、可動部材と近接部材のうち一方の部材における他方の部材との対向部
位が弾性部材で構成されているので、可動部材と近接部材との間に指が挟まれても、その
指分のスペースが弾性部材の変形によって形成される。これにより、指の怪我を防ぐこと
が可能になる。また、可動部材の移動範囲は駆動機構によって規制されているため、可動

部材が近接部材に近接配置されるときに、可動部材が変形させることなく弾性部材の形を保つことや、可動部材と近接部材が衝突することを防いで衝突音を出さないことが可能になる。